

平成 20 年度に実施した認証評価に関する検証結果報告書の概要 (高等専門学校)

認証評価の有効性や適切性について検証し、評価内容・方法等の改善に役立てることを目的に、平成 20 年度に実施した認証評価について、対象校及び評価担当者へのアンケートを実施。

【アンケート回収状況】

◇高等専門学校機関別認証評価

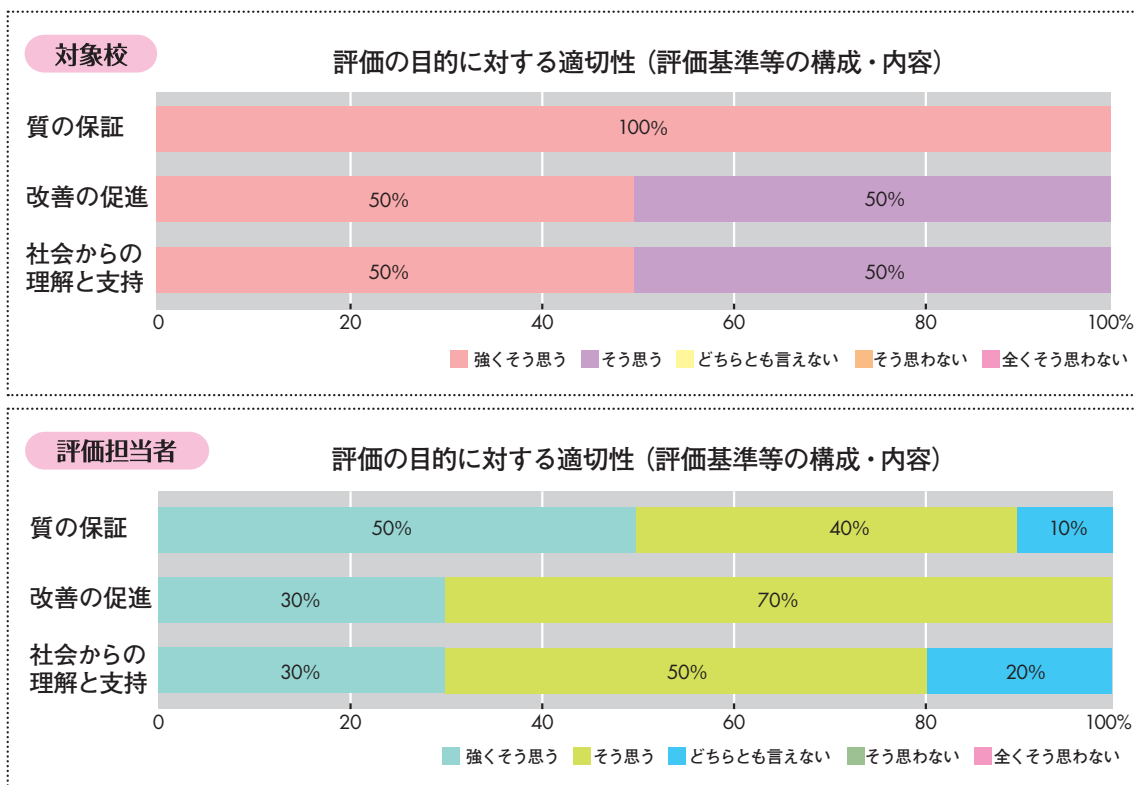
対象校 2 校全てから回答

評価担当者（部会構成員）13 名中 10 名から回答（回収率 77%）

1 検証結果の概要

■ 機構が定めた評価基準等について

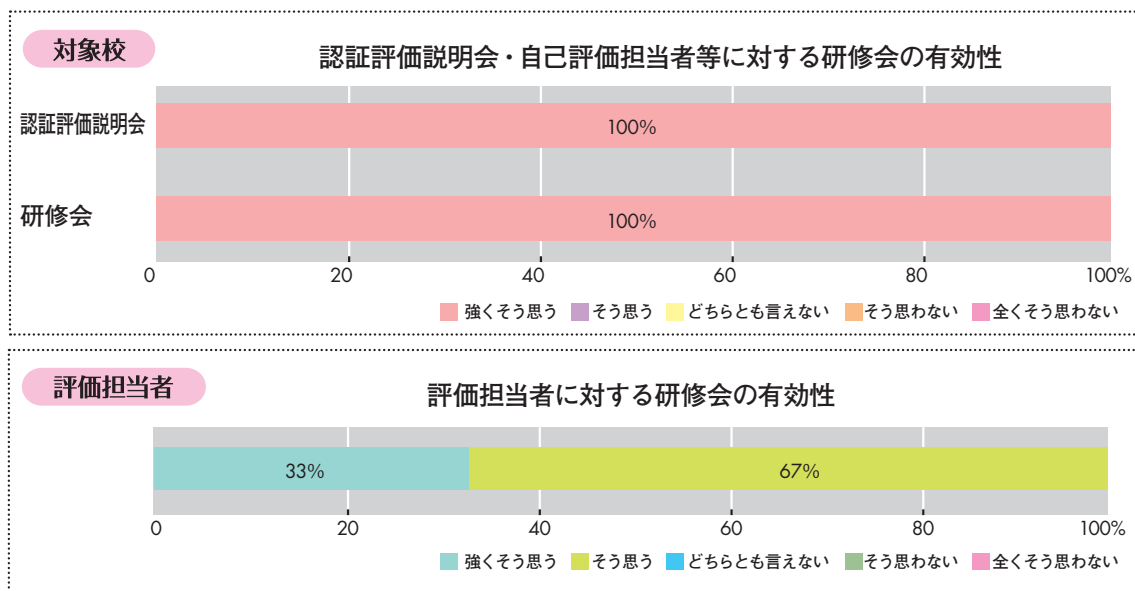
評価基準等の構成・内容は、対象校、評価担当者ともに「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の 3 つの目的に照らし適切であり、教育活動を中心に設定していることも適切であると回答している。



一方で、評価担当者の 4 割が評価しにくい評価基準又は観点があったとしている。

説明会・研修会について

認証評価説明会・自己評価担当者等に対する研修会、及び評価担当者に対する研修会については、いずれも有効性が確認されている。

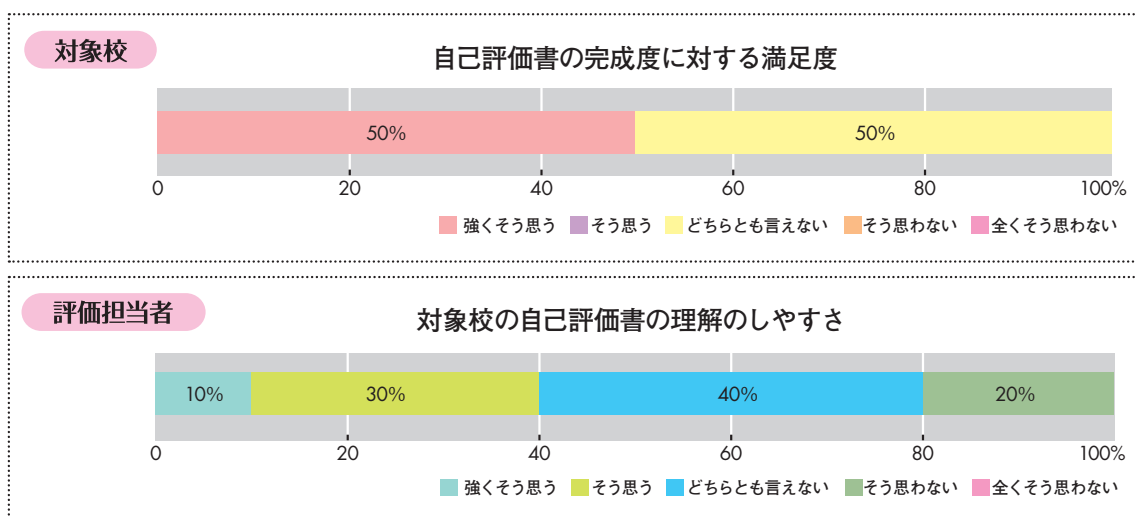


自己評価書について

評価担当者からは、自己評価書の理解しやすさについて、肯定的な回答が4割にとどまっている。

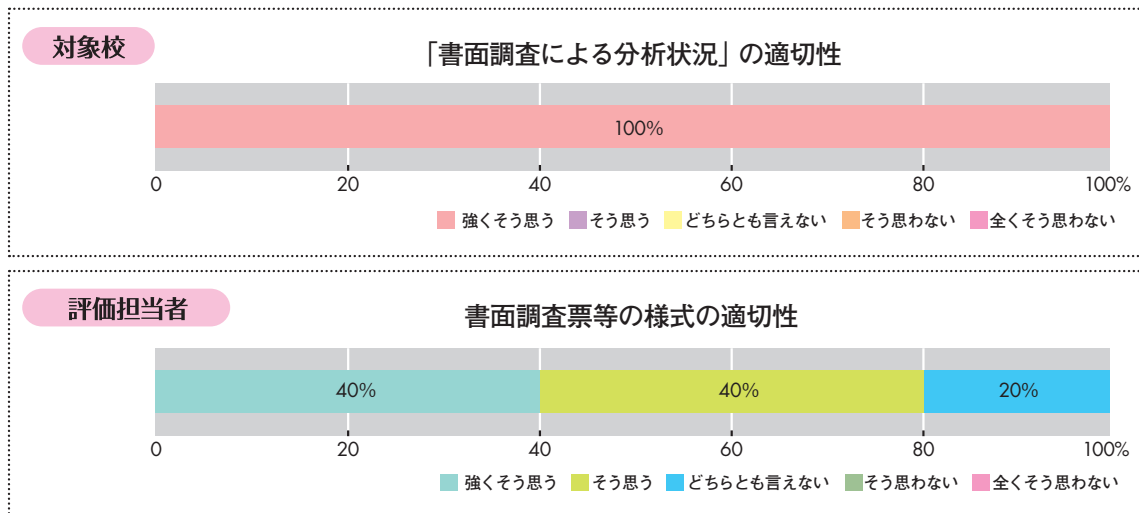
自己評価書の添付資料については、必要な根拠資料が添付されていたとする評価担当者からの回答が1割にとどまっている。

引き続き、説明会・研修会を通じ自己評価書作成に当たっての留意点の説明の工夫等が望まれる。

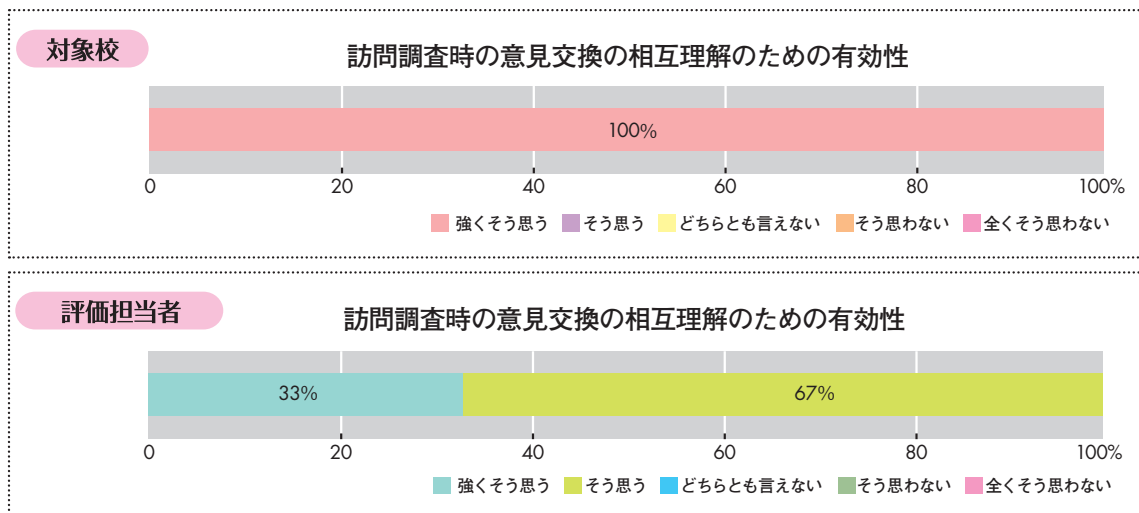


■ 書面調査・訪問調査について

「書面調査による分析状況」の内容については、対象校の2校とも適切であると回答した。また、書面調査票等の様式の適切性について、評価担当者の8割から肯定的な回答を得ている。

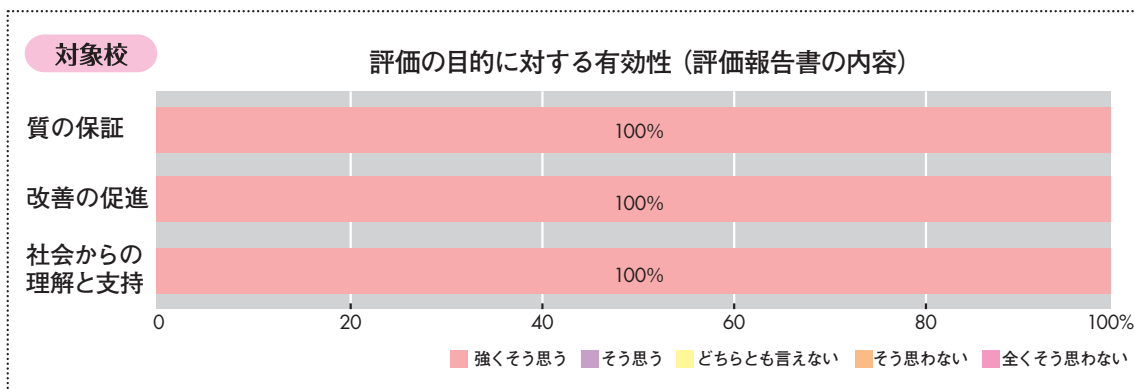


訪問調査時の意見交換による相互理解について、対象校・評価担当者ともに適切であると評価している。また訪問調査の実施内容についても、対象校・評価担当者から高い評価を得ている。

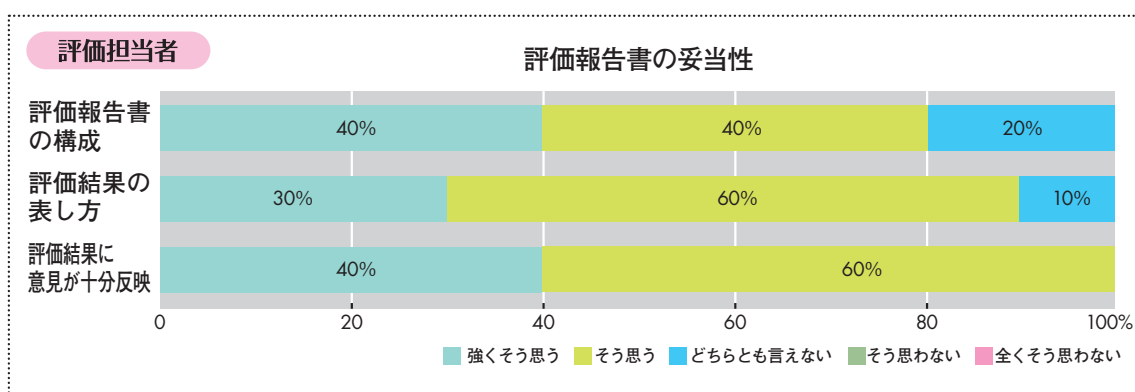


■ 評価報告書について

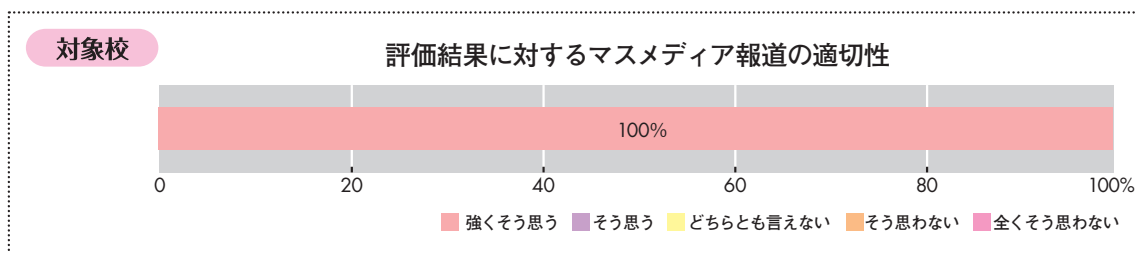
評価報告書の内容について、対象校は「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の3つの目的に照らし適切であり、その実態に即したものであると回答している。



評価担当者は、評価報告書の構成、評価結果の表し方や自らの意見の評価報告書への反映について適切であると回答している。

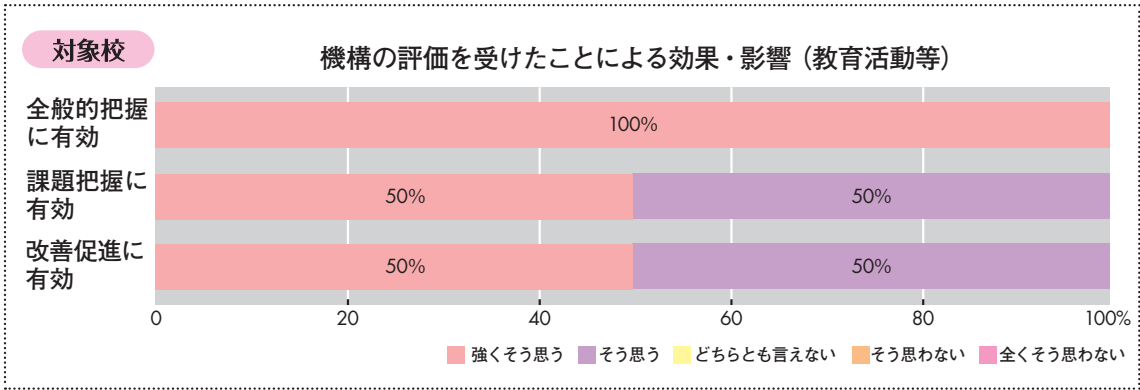


評価結果を受けてのマスメディア等の報道の適切性については、対象校の回答において否定的な回答であったことから、引き続き、機構の行う評価の意義について理解が得られ、広く報道されるよう、工夫していくことが望まれる。

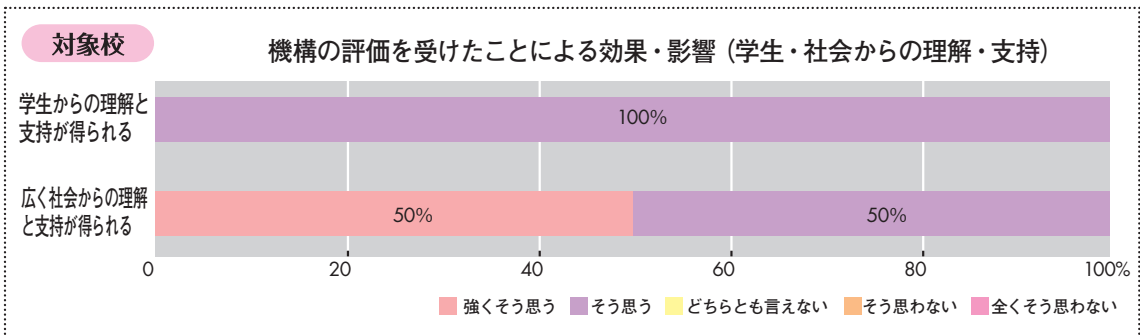


■ 評価を受けたことによる効果・影響について

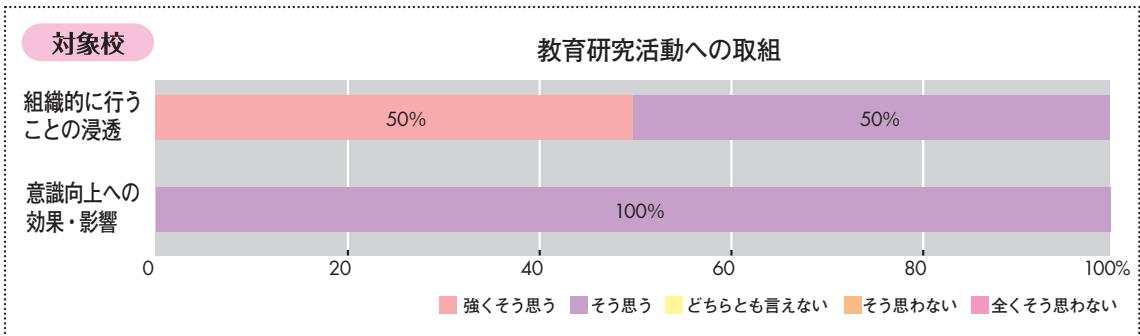
対象校は、機構の評価を受けたことにより、教育研究活動等の状況や課題の把握に役立つとともに、教育研究活動等の改善の促進につながるものとしてその効果・影響を高く評価している。



学生や社会からの理解と支持が得られたかについて、対象校から肯定的な回答を得ている。



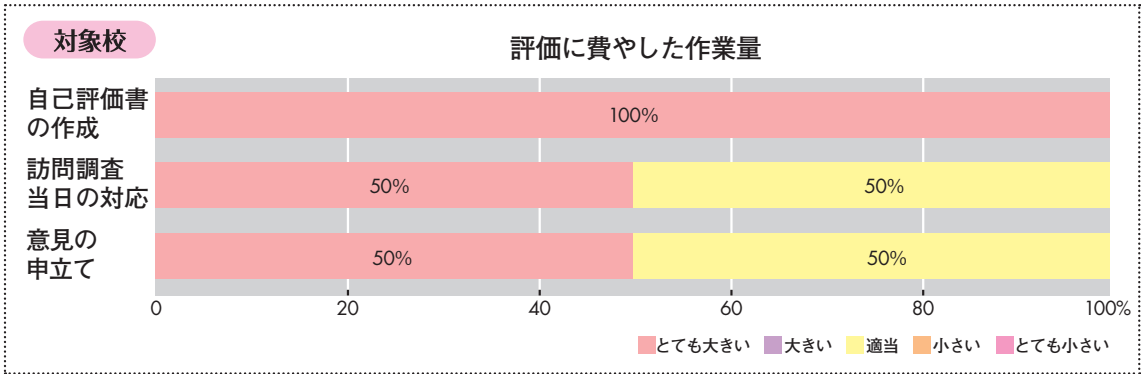
教育研究活動等を組織的に行うことの重要性の教職員への浸透や、各教員の教育研究への取組の意識向上への効果・影響についても、対象校から肯定的な回答を得ている。



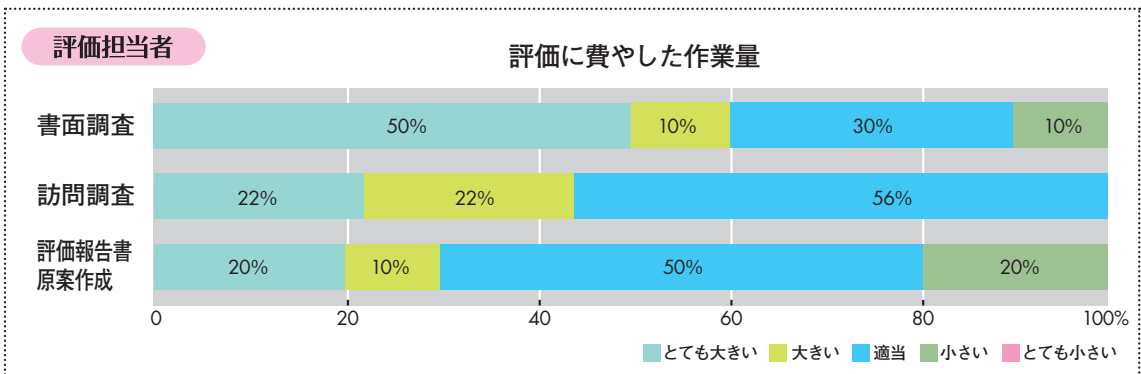
自己評価の実施及び機構の評価結果を踏まえた改善・向上への取組は、各対象校で着実に実行されている。（具体的な改善事例は別紙1のとおり）

評価の作業量等について

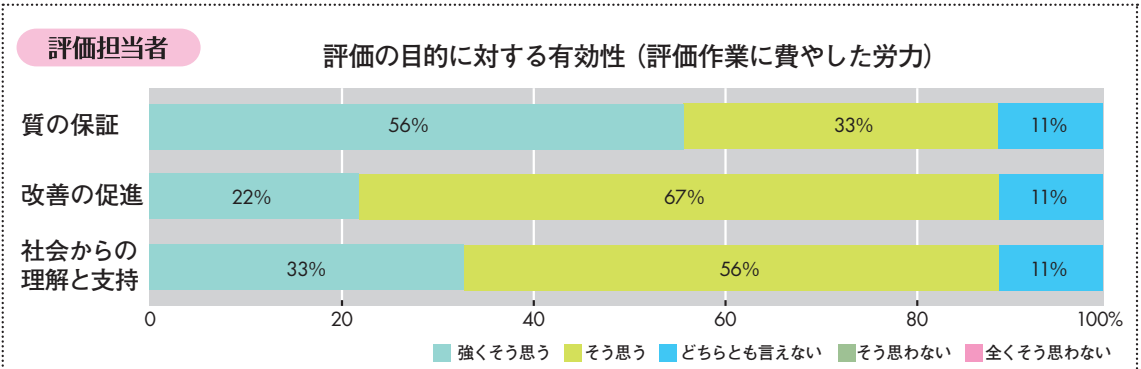
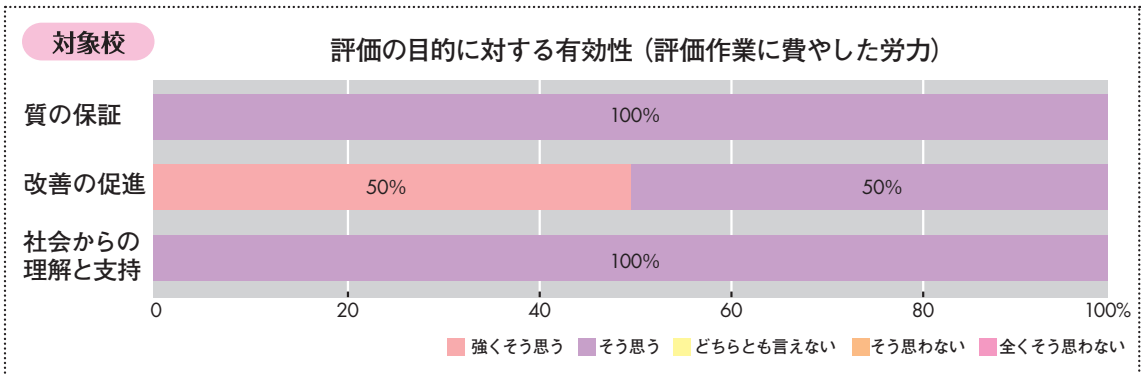
対象校は、自己評価書の作成に係る作業量がとても大きいと感じており、引き続き、作業量を軽減するための工夫が望まれる。



評価担当者の6割が自己評価書の書面調査の作業量が大きいのと感じており、引き続き、評価担当者の作業量軽減のための工夫が望まれる。



対象校・評価担当者ともに評価作業の負担は大きいとしているが、その作業に費やした労力は、評価の目的（「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」）に見合うものであると回答している。



認証評価結果を受けた対象校の改善取組の例

- 専攻科運営プロジェクトを発足し、専攻科課程について実入学者が入学定員を下回る問題の解決を図ることとしている。
- 目下、専攻科長を中心にインターンシップの利用促進を図る方向で検討中。
- 全校FDを開催し、シラバス改善の研修を行った。
- 担任、学生主事室、市全体のカウンセラーシステムの利用等を促進する方向で臨んでいる。

認証評価の改善・充実のための機構の取組例

評価基準関係

- 各年度の「認証評価に関する検証のためのアンケート」における対象校と評価担当者からの意見、及び中央教育審議会答申（高等専門学校教育の充実について（平成20年12月））における提言等を踏まえ、平成23年度から実施予定の高等専門学校機関別認証評価の第2サイクルに向けた評価基準の見直しを進めている。

研修・説明会関係

- 認証評価説明会終了後実施する自己評価担当者等に対する研修会のほかに、個別に受審校を訪問し、改めて自己評価担当者を中心とした研修を行った。

書面調査・訪問調査関係

- 書面調査は従前の方法で実施した。また、訪問調査については、平成20年度から、調査項目を変更することがなく、3日から2日で行う日程として、対象校ならびに評価担当者の負担軽減を図った。